

父子討死とより要細の由山形表へ注進に及ひたる

山形勢勢白のり

去程に義光公白岩より北浦まで留守先臣を集
め評定に及ぶる矢桐相模守中より今夜松永
父子討死に力を以て敵村を籠めしめて富河江
谷地の人民に心替りしめて、勇気大なりと感
服し早急に出馬有て凶流中退治を成し、中
に諸人をも同じく義光仇をせしめける、以て友
の軍にはやりかゝては必ず味方の不利あり、彼の
東海林集人助逆を合も諸人をかくまひ、溢れ者

を命集め、海嶼の山奥に楯籠りしを討んと味方
長陣せしむ、然るに北証は方より打捨を成し、
彼もより打捨し、此者もあられ、日数を経て此し得
まじき、其策を以て和談せしむ、力攻にせむと欲し、
作せしめ、北証家尾張守に控中尤に北証去後
の東海林より先年庄内郡を越え、岩地と取合の時六
十里越え津に馳向、庄内の大勢を唯親子二門等こ
かいて追散し、救多の兵を討取て白多十郎より其戦
功を賞せし、程の者にて水沢細取中道寺の村の人
を打随ひ、要害堅固の所あり、落しに時余も